中山 紀子

20 号館 12 階　中山研究室

テーマ:文化人類学

【授業の主旨】

　これまで当たり前のことだと思ってきた様々な考えをもういちど見直してみる。この「既存の概念の相対化」は学問の初めであり、文化人類学はこの目標に向いていると考える。文化人類学が扱うテーマは、誰でもが行っている何気ないありふれた日常生活のことから外国の「不思議な」習慣まで多岐にわたる。具体的には、家族，結婚，性差，ライフスタイル，通過儀礼，交換，宗教，死などがある。現在担当者の中山の関心は、トルコ、イスラーム、女性、近代化、宗教、自然崇拝、イラン、中央アジア、アレヴィー、ヒズル信仰、スーフィズム、性教育などであるが、受講生はこれらにこだわる必要はない。多様な、身近な関心を持って受講してかまわない。中山が担当した 1 年次の授業「文化人類学入門」に関心をもった学生が望ましい。

【授業計画】

　この文化人類学ゼミで重要なのは、多岐にわたるテーマそれぞれを緻密に学習していくというよりは、自分のテーマに各自がどのように向き合うかである。「既存の概念の相対化」という文化人類学の基本的な態度を学んで欲しい。授業は以下のようなことを考えている。

① 春学期は、文化人類学の入門書等を使って各自の関心を確認する。
② 秋学期は、受講者全員が各自興味のあるテーマについて発表する。また、卒業論文作成に向けて、興味あるテーマの文献探索の方法、読書カードによる文献解読などの学習を行う。≈
③ 秋学期のおわりに卒論についての文章を書いてもらう。卒業１年前に長文を書く練習をすることで自分の言いたいことを人に伝える技術を磨く。

　授業であつかう題材は当面は教科書に沿うが、適宜参加する学生が提案してもかまわない。題材は文献とは限らず視聴覚資料や新聞・雑誌などの場合もある。

【成績の評価方法】

　何よりも授業に対する積極性によって評価する。議論を活発にするために、どんな内容でも自分の素直な意見を率直に言えることが重要である。当演習の理想は「踊るさんま御殿」である。あるお題（テーマ）に対して、自分のエピソード（意見）を語れること、そして、他人のエピソード（意見）につっこみ（コメント）を言えること。つまり、この演習の当面の目標は、活発な議論ができるようになることである。どのようなことでも学問となりうる。それを実感してもらいたい。議論で大いに発言し、議論の題材を自ら提案するなど積極的な態度の学生を高く評価する。

【教科書】

　受講生の関心に基づいて準備する。

【面談に際しての注意事項】

　ゼミ面談を希望する学生は、「1．なぜこの演習を希望するか」「2．どういうテーマに興味があるか」などについて文章を書いて持参してほしい（形式自由）。質問があれば、次のアドレスに問い合わせてください。

中山のアドレス：ｎｕｒｉｙｅ６４＠ｆｓｃ．ｃｈｕｂｕ．ａｃ．ｊｐ

　面接は集団で行うこともあります。また会議等で面談時間が変更になる場合は研究室のドアに貼っておきます。